

平成22年度全学共通科目  
「情報探索入門」第5回  
(2010年11月8日)

参考資料の種々とその利用  
(その1:講義編)

京都大学附属図書館研究開発室  
准教授 古賀 崇

1

本日の内容

- 参考資料などの活用法の説明  
- 百科事典を中心に
- 論文・レポート執筆の際のルールとマナー  
- 引用を中心に DVD鑑賞あり
- 次回・次々回の演習に向けて

2

参考資料の活用

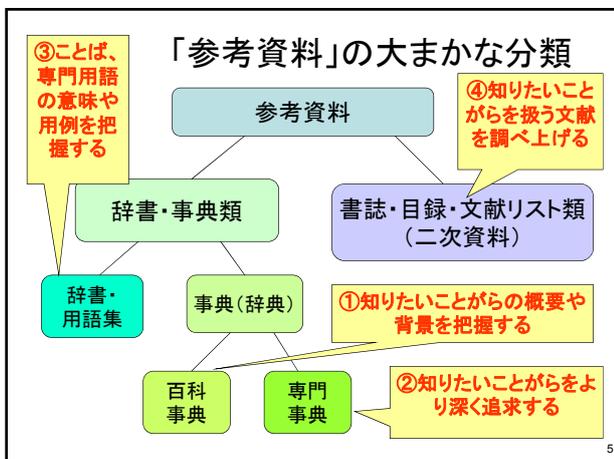
3

研究活動を通じて身につけて欲しい力

- 必要な文献を的確に探し出す力
- 集めた文献を主体的に読む力
- 論文として表現する力  
- 引用のルール、マナーも含め

→ 参考資料は1.に寄与

4



百科事典の特徴と機能

- 知識体系の構造化
- 「定説」の提示
- 専門家による執筆
- 一般の人向けの内容

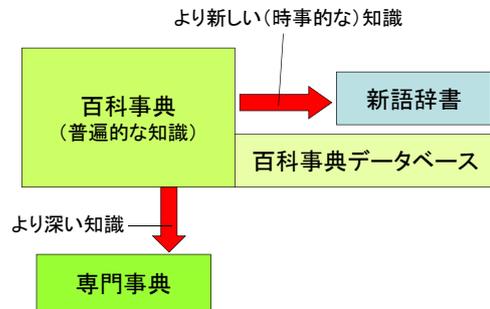
6

### 百科事典の使いこなし方

- 索引巻を先に引く(資料3参照)
- 執筆者、参考文献に注目する(同上)
- 複数の百科事典を引き比べる

7

### 百科事典と、関連する参考資料



8

### 新語辞書、それに類似するもの

- 現代用語の基礎知識(自由国民社)
- Imidas(集英社)
  - 2007年より書籍版は縮小
- 朝日キーワード(朝日新聞出版)
- 日本の論点(文藝春秋)
  - 2010年10月より、JapanKnowledgeで利用可能(1997年版以降)

9

### 百科事典データベース (有料のもの)

- JapanKnowledge + NRK
  - 京大で利用可能: 同時アクセスは「4」まで
  - <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/dbj/J.html>
  - 小学館の『日本大百科全書』『日本国語大辞典』などに基づく百科事典・辞書データベース
- ネットで百科@Home
- ポプラディアネット

10

### JapanKnowledge + NRK トップページ



11

### 「ノーベル賞」での検索結果



12



### 「レビュー」/Review

- 特定主題に関して、すでに発表された文献を総覧・評価→今後の研究動向を示唆
- 実例
  - 1年間の「総決算号」にレビューを載せるもの:『史学雑誌』『法律時報』
  - ほぼ毎号レビューを載せるもの:『カレントアウェアネス』(国立国会図書館、図書館情報学関連)
  - レビュー論文が中心となっているもの(レビュー誌):『児童心理学の進歩』、*Annual Review of Biochemistry*

19

### 「リーディングス」/Reader

- 特定のテーマに関し、優れている、あるいは特色のある論文を再録
- 実例
  - リーディングス日本の教育と社会(日本図書センター, 2006-)
  - *Information Technology and Society: A Reader* (Sage, 1995)

20

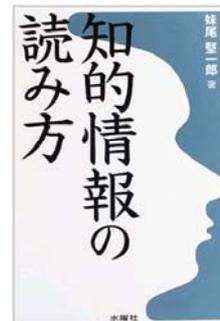
### 資料の質の違いを考える

- 書籍 vs 論文
- 入門書(新書など) vs 教科書 vs 専門書
- 一般雑誌の記事 vs 学術雑誌の論文
- 学術雑誌の論文 vs 紀要の論文

21

### 推薦図書

- 妹尾堅一郎『知的情報の読み方』水曜社, 2004. (右記)
- 妹尾堅一郎『考える力をつけるための「読む」技術』ダイヤモンド社, 2002.



22

### 引用などに関するルール・マナー

23

### 著作権と引用

- 「著作物」の利用は、原則として「著作権者」の思いのままにコントロールされる
- いくつかの例外
  - 教育の場での利用
  - 図書館での利用: 貸出、複製など
  - 引用
- 著作権の話とは別に、情報利用のマナーとしても捉える必要

24

### 鑑賞するビデオ(DVD)

- 「情報教育教材シリーズ 情報倫理デジタルビデオ小品集3」独立行政法人メディア教育開発センター, 2008.  
- 「27. Web貼り付けレポートはNG」

25

### ポイントは...

- 引用の目的  
- 「自分の文章」と「引用部分」の主従関係もポイント
- 引用部分の明確化、被引用文献(出典)の明示
- 引用する情報源の取捨選択

26

### その他の注意点

- 図・表の引用に関しても出典を明示する
- 実験や調査の結果に関するデータを改ざんしない
- 電子ジャーナル上の論文について、短時間のうちに大量にダウンロードしない

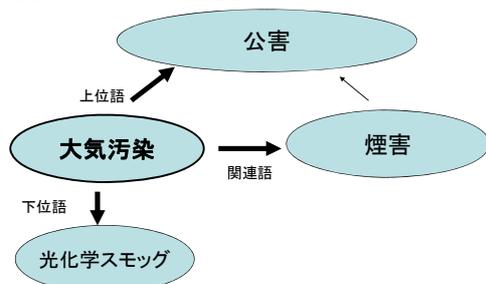
27

次回以降の演習に向けて  
(予習しておくこと!)

28

### 文献の探し方(1)

- 「何を探したいか」のキーワードと連想  
- 資料7(シソーラス)を参照



29

### 文献の探し方(2)

- ことばの「掛け合わせ」のしかた(検索式)  
- 資料4参照
- 「ノイズ」と「漏れ」
- 予習として「KULINE」(目録データベース)を使ってみること

30

### 雑誌の中の論文を探す

- 本や雑誌という「単位」「固まり」では捉えられない
- 論文を探すしくみ(データベース)は別途構築
  - 日本のは「CiNii」で

31

### その他

- 自分が課題で扱いたいと思う分野(教室内に掲示)に移る
- 次回の附属図書館での演習に関する注意
- 資料一式は次回(11/15)および第9回(12/13)も持参のこと
- 課題は12/13(月)の授業で提出(厳守!)

32